

# 福井大学の 特色ある取組 2020



# 格致によりて 人と社会の未来を拓く

近代福井の礎を築いた松平春嶽公が書した本学所有の「格致」の額面は、同人の歴史的功績を考えれば本学の宝であると言えます。

「格致」とは「物事の道理や本質を深く追求し、理解して、知識や学問を深め得ること」という意味です。本学学生にとっては、学びと人格育成に際し、また教職員においては、研究・教育・社会貢献等で自らの指針となる言葉です。

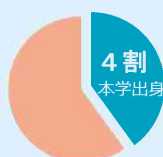
福井大学は、この「格致」を理念に掲げ、県内より世界に至る様々な地域において、そこに集う人、ならびに社会の未来を拓くことに主体的にかかわり、貢献することを目指します。



本学所有の「格致」の額面

※「格致」とは中国の古典「大学」にある「格物」「致知」を短縮した熟語です。  
「格物」とは事物に直接触れ、「致知」は知識を完成させることなどとされます。

## 多くの卒業生が福井を支えています



県内教員数の割合



### 教育学部 (旧教育地域科学部)

—地域の次世代を  
育てる教員の養成—

○福井県の教員数  
(小中高・特別支援学校)  
7,393人  
うち本学の卒業生数  
3,016人



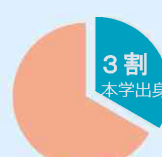
県内医師数の割合



### 医学部

—地域医療を担う  
医療人の養成—

○福井県の医師数 2,057人  
うち本学の卒業生数 624人  
  
○福井県の看護師・保健師・  
助産師数 9,717人  
うち本学の卒業生数 349人



県内エンジニア・  
科学研究者数の割合



### 工学部

—地域産業を創造する  
技術者の養成—

○福井県のエンジニア・  
科学研究者 13,700人  
うち本学の卒業生数  
4,587人

※福井県のデータは、教：2019年度学校基本調査、医：2018年医師・歯科医師・薬剤師調査、看：2018年衛生行政報告例、工：2015年国勢調査より。  
福井大学卒業生のデータは、2018年度時点の同窓会データより。(工学部は経営戦略課調べ)



## 教育学部理念

# 新しい時代に生きる子どもたちの未来をひらく教師をめざして

(教育学部・連合教職開発研究科)

## 地域と協働する実践的教員養成プロジェクト

### ～学部教育～

#### 探求ネットワーク事業

子どもたちと共に、人形劇、料理作り、まちかど調査隊、FFC（ふれあいフレンドクラブ：障がいのある子どもたちが対象）などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養います。



探求ネットワーク事業

#### ライフパートナー事業

学生が、不登校/発達障がい児童生徒の学校や家庭を訪問し「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助します。共に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動します。この事業には、子どものこころの発達研究センターも参加しています。



教育実践研究（教育実習）

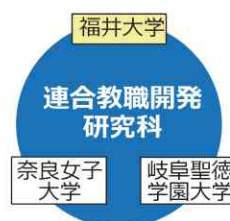
#### 教育実践研究

学生が4年間かけて履修する総合実践プロジェクトであり、1年次から附属学園等に出かけ、実践と研究を往還しながら活動します。

### ～大学院教育～

#### 特色ある3大学による「連合教職大学院」

本学を基幹校に、教員養成に優れた実績を持つ奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学が参加して、評価の高い「学校拠点方式」を軸とした3つのコースにより、若い世代の教員や学校で核となる教員、管理職を養成します。



#### （学校拠点方式とは）

幼小中、特別支援学校等の学校現場（拠点校、連携校）を学びの場とする本学独自の教育方式。県域を越えた3大学が連合し、全国の約60拠点で学んでいます。



#### 三位一体教育改革

基幹校である福井大学では、学部・大学院・附属学園の有機的な結合のもと、研究実践者教員を中核とする教員養成機能の抜本的強化を推進しています。

- ・教職大学院を附属学園に置き、附属学園を先端的教师教育研究の拠点に
- ・福井県内全ての管理職候補者が無理なく大学院で学べるシステムを構築し、学校改革マネジメントの力量向上に
- ・附属学園に新たに教職大学院所属の「研究実践者教員」を配置



### ～附属学園～

**義務教育学校：**9年間を見通し、未来社会に求められる資質・能力を育成しています。文部科学省の研究開発指定を受け、新領域「社会創生プロジェクト」を創設し、協働探究カリキュラムの開発を行っています。

**幼稚園：**探索から探究へ、感覚的な学びから自覚的な学びへ、幼児教育と小学校教育の接続を踏まえ、遊びを通して学ぶ保育実践園です。海外の先生方とのふれ合い等、様々な人との出会いの場として、週4日間の預かり保育も充実させています。

**特別支援学校：**12カ年を一貫とし、一人一人の教育的ニーズに応じた生活教育を実施しています。同時に教員はインクルーシブ教育を推進させ、通常教育の中での教育活動を支援しています。



義務教育学校での学びの様子

## 医学部理念

## 愛と医術で人と社会を健やかに

(医学部・医学系研究科)

真理を探究する知への愛－

人命を尊重し人間に共感する人への愛－

## 医学教育の国際標準化

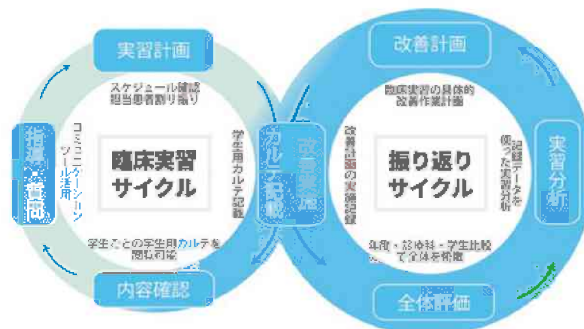
医学科では、世界医学教育連盟が定める教育の国際標準「医学教育分野別評価基準」に準拠した教育プログラムを編成し、高度専門職業人として国際的に通用する医師・医学研究者の育成を促進しています。

## 国際認証評価に向けた取組

本学が独自に開発した学生用電子カルテ・e-ポートフォリオ・課題提出機能・教員用評価機能を一体化した臨床教育ICTシステムCESSを整備し、有機的な臨床実習を実現するとともに、診療参加型実習の質と安全を保証します。

このシステムは、「文科省主催医学教育ワークショップ」や「日本医学教育学会」等で非常に高い評価を得ています。大学発ベンチャーで製品化しており(F.CESS<sup>TM</sup>)、今後、日本全体の医学教育の向上に寄与できるものです。

※F.CESSは、国立大学法人福井大学の登録商標です。



CESS運用サイクル

## 革新的画像医学教育：

## 高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、充分に活用できる医師を養成しています。



画像診断教育の様子

## 看護学教育：

## 多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

看護学科では、幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）ができる教育を行っています。また、地域の健康ニーズを把握し地域住民の健康を高めるための「ふくい看護論」を独自のカリキュラムに組み込むと同時に、多職種連携の在宅医療を担う看護師教育の充実を目指し、医学科学生とチーム医療を意識した「地域ケア実習」を実施しています。また、キャリアアップ実習では、将来のキャリア形成のために国内あるいは海外（英国等）の病院で、高度実践看護師体験実習を選択制で受講できます。



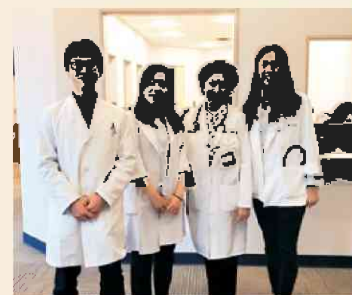
バーミンガム市立大学

## HOT NEWS

## 米国ラトガース大学で臨床実習などの交流活動を展開

米国ニュージャージー州にあるラトガース大学は、米国で8番目に創設された屈指の名門校で、本学が1981年に協定を結んだ初めての海外大学です。今回、この協定を発展させ、2019年2月に本学医学部とロバート・ウッド・ジョンソン・メディカルスクール(RWJMS)は部局間学術交流協定を締結。同年4月から1カ月間、本学医学部医学科の6年生2名を派遣し、臨床実習などの研修を行いました。

研修では、家庭医学（総合診療）や麻酔科実習、心臓血管外科のオペ見学など、米国の臨床の現場を目の当たりにし、「医療英語を鍛える良いトレーニングになった」「日本との違いと、即戦力を目指す米国の実習のあり方に大きな刺激を受けた」と手応えを感じた様子です。



ラトガース大学での様子

## 工学部理念

# 夢を形にする技術者、IMAGINEERをめざして

(工学部・工学研究科)

## Global Imagineerの育成

工学部では、2004年度よりImagineerの育成という理念を掲げて教育改革を推進しています。

Imagineer = Imagine(心に描く)+engineer(技術者)。現在では辞書にも掲載されている英単語です。技術者が心に描くべきものの一つは、人々の暮らし。工学の使命は人々の安全・安心な暮らしをデザインすること。人々の暮らしに想いを馳せることは、コンテキストを共有する日本人の中では比較的容易ですが、本学では、その想いを世界の人々へと拡張するGlobal Imagineerへの挑戦を2012年度より開始しています。

## 自己変容型知性を育む創成教育への挑戦

Intelligence（知能）については、AIが人間を越える日が近いのかもしれませんが。しかし、知能指数で測れるような知能と知性（intellect）は本質的に異なります。

教育がなすべきことは、どんな状況になってもしなやかに生き延びることのできる「知性」を育むこと。そうした知性を育む方法論は確立していませんが、私たちは学科・学年の枠を越えた主体的グループ活動を学科横断型の教員組織で支援する創成教育を通じて、新たな能力育成に挑戦しています。



人工知能(AI)やヒューマノイド・ロボットを作り出す人材を育成

## 産業現場への即応、そして次世代産業の創成

現代の技術者には産業現場への即応と新たな時代を切り拓く能力が同時に求められます。産業界からの実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム（実践道場）や繊維系大学連携（信州大学・福井大学・京都工芸繊維大学）による次世代繊維・ファイバー工学分野の人材育成といった多様なプログラム等を通じて、高度専門技術者の育成に取り組んでいます。



超臨界染色技術の研究

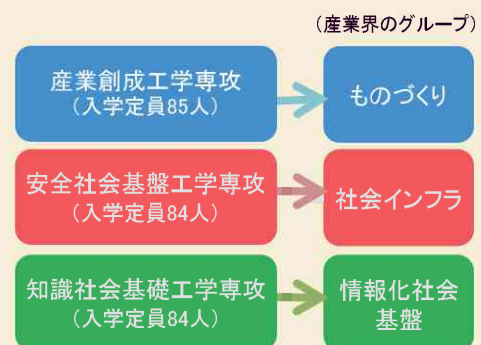
## HOT NEWS

### 大学院工学研究科博士前期課程を再編

### スペシャリストかつジェネラリストたる高度技術者を養成

将来の産業構造の変革に対応できるスペシャリストとしての深い専門知識と同時に、ジェネラリストとしての幅広い知識・視野を持つ人材の育成を目的に、2020年4月、大学院工学研究科博士前期課程を再編しました。

本研究科の強みを考慮した上で、工学の起源である「ものづくり」と「社会インフラ」、さらにこれからの情報化社会（知識基盤社会）を支える「情報化社会基盤」の3つの産業グループに括り、各グループに対応する分野横断型の3つの専攻に計14のコースを設置。コース指定の科目で専門性を、専攻全体の科目で幅広い知識・俯瞰的視野を習得します。



分野横断型の3つの専攻で人材を養成



## 国際地域学部理念

## 未来志向で、地域に織り込む世界へのまなざし

(国際地域学部・国際地域マネジメント研究科)

## 世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と海外留学を通じた異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学を含めた多様な経験の機会を提供しています。

## 地域の企業・自治体等と連携した地域密着型課題探求プロジェクト

福井の産業振興や地域振興の現状・課題に触れることを目的に、グループ活動を実施しています。企業や自治体等へのヒアリングを通じて、各分野の実情や課題を学び、その知見を最終報告会でプレゼンテーションします。

## 医学部・工学部との連携による幅広い学識を培う文理融合型教育

現代の地域社会が抱える複合的かつ具体的な問題に対して意識を深め、その解決策提案に向けて、自然科学系の基礎的な知識や方法論を学びます。

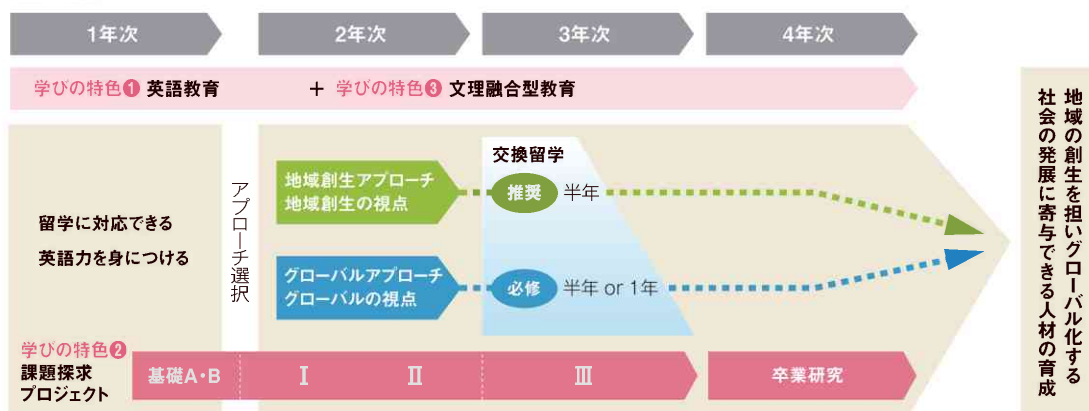


授業風景



天保2年(1831)創業の味噌蔵「米五」でのヒアリング

## 入学後の流れ



## HOT NEWS

## 専門職大学院を新設し、グローバル化した地域の課題解決に挑戦するリーダーを養成

福井県の高等教育環境や地域各界のニーズを踏まえた専門職大学院「国際地域マネジメント研究科」(修学期間2年)を2020年4月に設置しました。

2年間の修学の間に、「地域と世界の現状と課題を知る科目」「マネジメント能力、リーダーシップの育成に必要な専門知識」「語学力・コミュニケーション能力に関する科目」を履修し、「海外実地研修」により国際感覚の醸成と履修科目の内容の体得をはかります。

こうしたカリキュラムを通じて、グローバル化の進展に伴い企業や自治体に生じる諸課題の解決に挑戦する、国際的な視野と専門知識、事業の企画・運営に必要な実践力、及び語学力・交渉力を備えた人材を養成します。



教育課程の概要

# 国際社会に貢献できる人材の育成

(全学)

## グローバル・ハブを拠点とした世界につながる取組

文京キャンパスの国際交流スペース「グローバル・ハブ」には、ソファや雑誌、テレビを設置し、リラックスした雰囲気では様々な国際交流や情報収集を行うことができます。松岡キャンパスではマルチラーニングスペース等を活用してイベントを実施しています。

また、海外留学経験者・外国人留学生の学生スタッフが、海外留学や英語学習をサポートします。

学生同士のピアサポーターによる語学学習支援サービスU-PASS (University Peer Academic Support Service)では、外国人留学生を含めて、学生同士で協働して学び合い、言語力に自信が持てるようサポートしています。



グローバル・ハブ



U-PASS

## 世界の人々と学び、協働する海外留学

活発な国際交流及び国際水準での教育・研究を推進し、地域の国際化及び豊かな社会づくりに貢献できる人材の育成を目指し、学生一人ひとりの目的や関心に合わせ、充実した海外留学の機会を提供しています。

## 多様な海外留学制度

1週間～3カ月程度の「短期海外研修プログラム」では、多様なプログラムをレベル・内容別の6タイプに分類し、各学生の学習段階や将来設計に合わせて最適なプログラムが選択できます。

また、3カ月以上の中・長期留学では、現在60以上の学術交流協定校への交換留学（半年～1年間）等、幅広い選択肢を提供しており、集中的な語学力の向上や専門分野の知識・技術の研鑽を目指しています。

2012年度以降、海外留学を推進してきた結果、海外派遣学生数が大幅に伸びており、全学的に海外留学が定着してきています。



ルーマニア・ルーマニアアメリカ大学



タイ・タマサート大学



※トピタテ！留学JAPANによる派遣学生数含む

## TOPICS

### 外国人留学生受入れ体制の充実

本学では、世界中の国々からの外国人留学生を多数受入れており、本学の更なる国際化を目指して、留学生受入れ体制の充実・強化を進めています。2019年度には、留学生の生活・学習の両面をサポートする留学生チューターを渡日後ではなく、渡日前に割り当てるなど制度を見直し、留学生個々の状況に応じた弾力的支援を可能としました。また、国際センターでは、多様化する留学生の現状に応じ、日本語教育をよりきめ細やかな習熟度別の編成に見直しました。留学生の学習・生活・進学・就職等に関する支援を総合的に強化し、留学生の活性を高め、多文化共生キャンパスに繋げることで、本学の一層のグローバル化に貢献します。



学内での国際交流

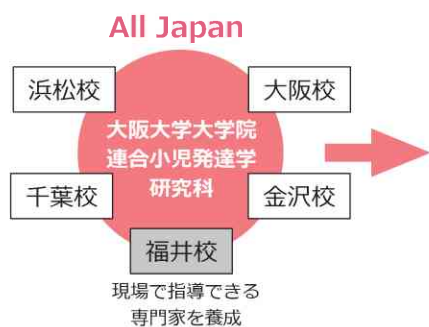
## 子どものこころの発達研究センター

## 子どものこころに取り組む

少子化が進む中、発達障がいを含むこころの問題を抱える子どもが急増しており、未来を担う子ども達を守り育てていくために、急増原因の科学的究明と専門家の育成が急務となっています。

本学の「**子どものこころの発達研究センター**」では、分子生物学技術やイメージング技術を駆使した脳機能の解明に取り組むとともに、新たな発達障がいの診療技法の開発を目指した研究を展開しています。**附属病院「子どものこころ診療部」**では、小児期・児童青年期のこころの問題の診断・治療を通して、子どもの問題行動への対処法の開発や、養育者に目を向けた取組みを実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。

さらに、研究成果を教育に還元する目的で**大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の5大学連合による大学院「連合小児発達学研究科」**では、All Japanの教育研究体制で、子どものこころの諸問題に従事する人材の育成に取り組んでいます。



## 教育

子どものこころと脳の発達に関する  
高度専門家の育成

福井県内外の学校・病院・福祉施設等における発達障がい児及びその養育者支援のための高度専門家を育成



ラボ・ミーティング風景

## 研究

## 子どものこころ・発達障がいの研究

- ・かおテレビでの自閉スペクトラム症のオキシトシン機能不全との関連を発見
- ・自閉スペクトラム症の新規関連遺伝子 Lrnf2/SALM1を発見
- ・匂いで誘発される社会行動ではNrp2が嗅球の回路形成を規定することを発見
- ・マルトリートメントの脳画像エピソード解析に着手
- ・エビデンスに基づくマルトリートメント予防モデル構築と社会実装に着手

科研費小区別採択件数  
「子ども学および保育学関連」  
ランキング 1 位



かおテレビ：子どもの視線を赤外線で測定し、子どもの「社会性」の発達水準を数値化する

## 専門医育成

小児期・児童青年期の  
こころの専門医の育成

小児期・児童青年期のこころの専門医およびコメディカル等の人材育成のための研修プログラムを開始



「児童青年期こころの専門医育成部門」設置記者会見

## 医療

子どものこころ・発達に関する  
専門的な医療の提供

小児科医、児童精神科医、心理士などの経験豊富なスタッフが連携し、一人ひとりに合わせたきめ細やかな診療を提供



診療風景

福井大学  
子どものこころの  
発達研究センター

福井大学  
医学部附属病院  
子どものこころ  
診療部



## 高エネルギー医学研究センター

## 高エネルギー電磁波の医学利用に関する研究を推進

サイクロトロン及びポジトロン断層撮影（PET/MRI）装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進しています。（米国ワシントン大学や放射線医学総合研究所他と学術提携）

## PET分子イメージングの包括的研究を推進

- ・新規PET薬剤等の開発研究や疾患動物モデルなどを用いた基礎研究
- ・PET/MRIを用いた診断・治療に関する臨床研究
- ・脳PETやMRI画像を用いた脳機能研究



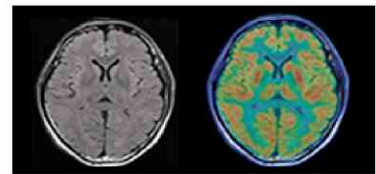
世界有数の最新型PET/MRI装置

## 画像医学研究を担う人材の育成

- ・医学、薬学、工学などの様々な学問分野における幅広い教育

## 医工連携による産学官共同研究

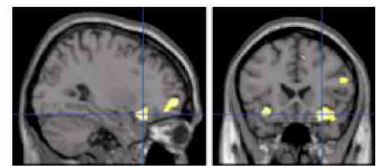
- ・パナソニックライフインフォマティクス共同研究部門を設置し、産学官共同研究を実践



PETとMRIの融合画像

## 子どものこころの発達研究センターとの共同研究

- ・機能的MRI（fMRI）を用いた脳発達に関する機能画像研究



学童～思春期に年齢とともに活動が変化する脳領域（カラー）

## 遠赤外領域開発研究センター

## 高出力遠赤外／テラヘルツ波分野における世界的拠点

世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進しています。

## 遠赤外（テラヘルツ光）領域の先進的・先導的研究

- ・高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」のさらなる高性能化
- ・ジャイロトロンの高周波・高出力電磁波を利用した電子スピネコー測定装置の開発



電磁波発生装置「ジャイロトロン」

## 国内外の研究機関とグローバルなネットワークを構築

- ・国内外多数の研究機関と学術交流協定や共同研究覚書を締結し、グローバルな共同研究と学術交流を展開
- （国内外9機関との学術交流協定、国内外9機関との共同研究覚書を締結）



遠赤外技術に関する国際会議（福井大学で開催）

## 附属国際原子力工学研究所

## 原子力の安全性向上、防災危機管理の向上のために

北陸・中京・関西圏の大学、研究機関との連携や周辺原子力施設を核とした研究拠点の形成をもとに、地域課題に対応できる人材育成、研究を進めるとともに、グローバルにも活躍できる人材の育成を進めています。

## 人材育成

- ・原子力に関する学部基礎教育
- ・原子力・エネルギー安全工学専攻での大学院生の専門教育
- ・国内外からの研究者・研究員の受入れ、県内の原子力施設を活用した質の高い国際的人材育成



グローバル人材育成  
(学生と外国人研究者との討論)

## [これからの原子力の安全を担う基盤人材～先導する人材の育成]

◇2016年度工学部学科構成の再編に伴い、工学部機械・システム工学科に「原子力安全工学コース」を設置しました。2018年度（3年次生）から敦賀キャンパスで県内の原子力関連施設を活用した実践的専門教育を実施し、学・修一貫教育を推進しています。



◇原子力規制人材育成事業「官学連携による原子力規制人材育成（福井モデル）」では、福井県が国際原子力機関（IAEA）との覚書を締結し世界の原子力の安全を支える人材育成に積極的に取り組んでいることをふまえ、福井県との連携による原子力の規制に係る学生、若手行政職員育成の仕組み構築に取り組んでいます。

## 研究

- ・福井県嶺南地域の研究機関、民間企業等との共同・協力による、実炉を対象とした原子力の基礎・基盤研究
- ・フランス、アメリカをはじめとする海外の研究機関との活発な学術交流・国際的な原子力安全研究
- ・原子力の安全性向上、防災危機管理、廃止措置に関する研究
- ・革新的原子力システムの安全基盤技術に関する研究開発
- ・放射性廃棄物の減容及び有害度低減を目的とした原子炉システムに関する研究開発などの新たな研究開発に取り組んでいます。

## TOPICS

## ニュートリノを用いた

## 原子炉稼働状況の遠隔モニタリング研究

原子炉建屋の外に検出器を設置し、原子炉における核分裂由来のニュートリノを観測することで、原子炉内部を安全かつ独立にモニターすることを目指しています。素粒子であるニュートリノを原子力分野に応用するユニークな研究です。



原子炉ニュートリノモニター概要図



## 附属病院基本理念

## 最新・最適な医療を安心と信頼の下で

## 県内で唯一の特定機能病院として高度医療を提供

「地域医療の砦」として最重症疾患患者を受け入れています。  
安全で質の高い医療を提供するとともに先進医療の促進、若手医師の臨床研究への積極的参画の推進を図り、先進医療技術の地域医療への展開を目指しています。



全ての患者を受け入れ  
「地域医療の砦」として迅速に対応

## 大学病院初の北米型ER救急体制

軽症の一次救急から高度の専門的な治療が必要な三次救急まで、全ての患者を365日24時間体制で受け入れています。救急部と総合診療部の合体運営により患者のニーズに応じた救急初期診療を実践しています。



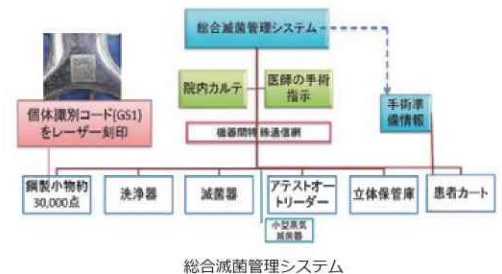
二人一組のチームで看護ケアを行う

## パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）と「看護総合力育成プログラム」の実現

- ・本院看護部が開発した独自の看護体制（PNS）を全病棟で導入。二人の看護師がパートナーを組み、患者さんに安全で質の高い看護ケアを提供します。
- ・卒後3年間は、看護総合力育成プログラムに沿った段階別研修と育成チームによる支援体制により看護師として必要なスキルを習得します。

労働生産性・安全性の向上と働き方改革の実現：  
手術器具の「総合滅菌管理システム」を開発・導入

約32,000点の手術用鋼製小物の洗浄・殺菌から術後回収まで一元管理を行い、器材のトレーサビリティを確保することで、安全性向上、ワークフローの効率化による人件費削減、労働時間の短縮による看護師らの働き方改革に貢献するなど大きな成果を上げています。これらの成果は全国的な評価を受け、「MCPC award 2019」で総務大臣賞、「看護業務の効率化 先進事例アワード 2019」で特別賞を受賞しました。



総合滅菌管理システム

## TOPICS

## 県内唯一の「がんゲノム外来」を開設

がんに関連する遺伝子変異を解析し、最適な治療を探る「がんゲノム外来」が、京都大学と名古屋大学の医学部附属病院と連携する、がんゲノム医療連携病院として2018年11月1日、本格始動しました。

化学療法や手術といった標準的ながん治療では効果があがらないなどの条件を満たした患者さんを対象に、主治医からの紹介で受け付けています。一般的に、検査から実際の治療に結びつくのは20%弱と課題はありますが、がん患者さんごとに効果のある薬剤をみつける個別化医療の実現、そして、治療の最適化が期待されています。2019年12月からは、これまでの自由診療に加え、保険診療も開始しています。

【お問合せ先】がん診療推進センター 0776-61-3111（代表）

附属病院ホームページからがんゲノム外来の詳細を確認できます。

<https://www.hosp.u-fukui.ac.jp/consultation/special-outpatient/cancer-genome/>



京都大学病院とのエキスパートパネル



## 地域医療の担い手の育成

### 地域の医師は、地域が育て、地域が守る

医学部地域プライマリケア講座では、高浜町和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成しています。

- ・外来診療をはじめ救急診療、在宅医療、健康相談
- ・医学生・研修医教育だけでなく町民の皆様への啓発活動
- ・医療システムの研究や健康動態の調査



### 福井メディカルシミュレーションセンター

県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備しています。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人教育を高度化します。

- ・医学生・看護学生、医師、看護師等医療従事者の実技研修
- ・多職種連携トレーニング
- ・救急対応の標準化
- ・県内医療従事者の生涯教育の充実



縫合と結紮の基本（実技）の様子

＜2019年度実績＞  
毎月延べ約470名の医師・看護師・学生・コメディカルの方が利用  
(うち学外からの利用者年間約150名)

### 臨床教育研修センター

「次世代を担う医療人を育てるために」をテーマに、卒後臨床研修の円滑な実施を始めとし、学生・医師・看護師および医療従事者の方に技術や知識を修得する場を提供することを目的に設置されました。

- ・本院で研修する初期臨床研修医の勉強・交流の場
- ・院内外の医療従事者を対象としたセミナー・講習会の開催



初期臨床研修医向けコアレクチャーの様子

## TOPICS

### 永平寺町立在宅訪問診療所を活用した在宅医療支援と総合診療医の育成

「かかりつけ医」機能の確保など在宅医療支援を充実させたい福井県吉田郡永平寺町と診療参加型医学実習や研修医教育など医師養成の場を求める本学が協定を結び、2019年8月に永平寺町が在宅訪問診療所を開設しました。

同診療所は本学が指定管理者として運営・管理を行い、地域の医療ニーズに応えるため、外来・訪問診療（訪問診療中の患者は24時間対応）を実施しています。

同時に、学生の実習、医師の研修を受け入れ、地域医療に欠かせない在宅・介護等の県内の慢性期医療を支える総合診療専門医等の育成と確保に努めます。



永平寺町立在宅訪問診療所



患者宅へ訪問診療に



多職種カンファレンス



## 産学官連携本部

## 産学官でイノベーションをハイブリッド推進

教員、URA、事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取組事例

## 「ひとつ屋根の下」の協働！

## 「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進。さらに自前でも、新しい先端機器を続々と配置。

## 「オープンR&amp;Dファシリティ」

学内の大型計測機器類を結集した研究開発施設を整備し、地域企業等と大学が連携してソリューション追求型の研究開発を推進。



先端機器を利用したコシティング\*



最先端計測機器

## イメージを「見える化」する試作！

## 「インキュベーションラボファクトリー（ILF）」

大学のもつ技術シーズを、地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作。市場性を問い、産業界へ橋渡し。さらに、市場の反響を見て、事業として一歩踏み出す活動も。

〈ILFにおける試作品の例〉



浅井戸・加圧給水用ポンプ

油管理計

## 「知」の創出を支援する専門人材！

## 「URA（リサーチアドミニストレーター）」

新たにT-URA(TはTechnology, Trainig, Transfer等を意味する)の取組みを加え、研究現場における産学の情報集積、機器分析を通じた人材育成、技術相談等もカバー、大学を基軸に知的創造サイクルを回すエンジンとして、研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを通じ、研究の卓越性を探究します。

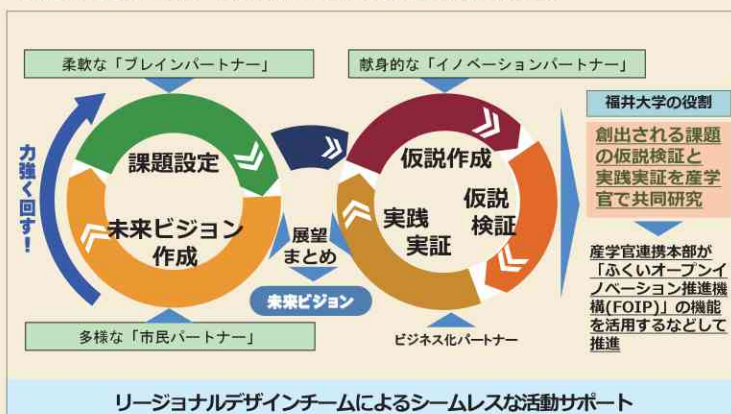
## TOPICS

## 未来ビジョン作成を起点とした地域イノベーション共創サイクル！

## 若者×地場産業で共創する地域未来文化「SABAEとは？」

※2019年度 文部科学省 科学技術イノベーションによる地域社会課題解決（DESIGN-i）

持続可能な地域モデル“めがねのまち さばえ”を未来ビジョンとして共創するために、鯖江市と福井大学が連携して、眼鏡や漆器、繊維、ITなど新旧の産業を地域資源として発展させながら、新たな意味や価値を提供するモノやコトを自律的に次々と創造・提供し続ける仕組みを構築。そこで生み出される、新たな科学技術イノベーション課題について、福井大学産学官連携本部が中心となってその開発を推進します。



## 2019仮説検証

## 検証テーマ1：眼鏡

スマートフレームによる安心でカッコいい個人認証サービスの開発



## 検証テーマ2：漆器

IT x ニュー漆器でほっと想いが伝わる食事サービスの開発



## 世界への挑戦と創造

(鯖江ならではのものづくり)

## 地域が必要とする人材を育成

### 地域創生推進本部における人材育成

「地域創生推進本部」では、新たな製品による豊かな生活感やライフスタイルまで創造する「ことづくり」を担う人材の養成に取り組んでいます。2020年度からは、新たに3つの「部」を新設し、5部体制により、COC+事業※で培ったノウハウとネットワークをベースとし、ものづくりのイノベーションが地域の魅力につながり、人を引き寄せ、地域社会のイノベーションを生み出すサイクルを実現できる人材を養成し、一層顕在化した地方創生の諸課題への取組を推進します。

#### 地域創生推進本部

##### 創生人材育成部

大学院工学研究科産業創成専攻 経営技術革新工学コースにおける地域イノベーション・PBL型教育研究

##### 地域連携推進部

地域草の根連携・大学連携共通講義や公開講座、PBL教育等を実施

##### 留学生定着支援部 (新設)

海外からの高校生獲得、日本語教育、地域就業支援

##### 地域キャリア推進部 (新設)

行政と連携し、地域就業等の支援と地域志向キャリア教育を担当

##### アドミッション部 (新設)

地域からの高校生獲得、高大連携教育活動

### ※COC+事業：地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（2015～2019年度実施）

本学が責任大学となり、県内の4年制大学（参加大学：福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学、協力大学：福井医療大学）と、福井県ならびに地域の産業界等と一体になって、地域の持続的発展に貢献するとともに、学生の地元定着率の向上を目指してきました。

年間約1200人（延べ）の学生が履修しています



サテライトキャンパス（フスクエア）で地域を知るための講義を共同開講

3年目となる2019年度は「ふくい地域創生士®」81名を認定。また、「ふくい地域創生アワード」に7名が表彰されました！



※「ふくい地域創生士®」とは福井大学の登録商標で、地域を学び、自分を知ることにより「地域に貢献できる人材」と認定された証です。

※「ふくい地域創生アワード」とはふくい地域創生士の中から、地域の課題解決に繋がる顕著な業績を上げた学生を表彰するものです。

## 国際貢献

### 国外機関と連携した国際的教育実践研究

OECDやJICAと連携し、NIE（National Institute of Education）やWALS（The World Association of Lesson Studies）と協働で、「学校拠点方式」による教員養成と教師教育を世界展開します。

2019年11月、教員研修や教員養成研修に携わっている教育行政官や教員など、アフリカ諸国にサウジアラビアを加えた7カ国から12名を受入れ、アフリカ圏の教育の質向上を支援する研修事業を行いました。



少人数グループでのディスカッションの様子

### エジプトの教員の能力強化を目的とした人材育成事業

連合教職大学院では、エジプトの教員の能力強化を目的とした「エジプト・日本教育パートナーシップ」の人材育成事業により、2018年度からの4年間で約680名の教員を研修員として受入れます。

2020年1月には第3回目のプログラム受講生40名が本学を訪れ、教育学部附属義務教育学校や福井市公立学校で学校行事や授業を参観。「児童らによる給食準備」「朝の会」など日本独特の教育活動を中心に学びました。この他、本学教員がエジプトの現地を訪れ、帰国後の取組みをフォローアップするなど、包括的な支援を行っています。



附属義務教育学校での参観



## 就職率 12 連覇

教育地域科学部  
99.3%医学部  
88.5%工学部  
97.6%

## 高い就職率！

大学通信調査「全国大学実就職率ランキング2019」において、本学は複数学部を有する国立大学では12年連続全国1位となりました。

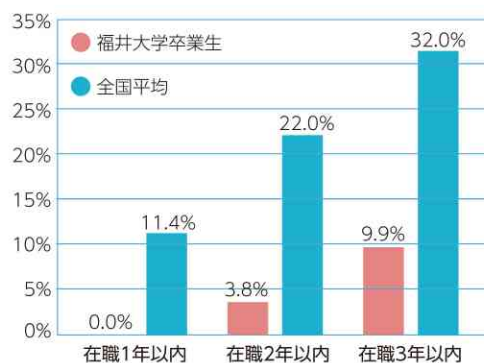
## 低い離職率！

在職期間3年以内の離職率（9.9%）は全国平均（32.0%）を大幅に下回っており、企業からはその高い定着率が評価されています。

## 実就職率ランキング 複数学部を有する国立大学

	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2019	福井大学	97.0	岐阜大	94.4	九州工大	94.0
2018	福井大学	97.3	岐阜大	94.8	三重大	94.0
2017	福井大学	97.4	九州工大	95.5	秋田大	93.9
2016	福井大学	96.8	九州工大	95.8	三重大	94.3
2015	福井大学	96.1	群馬大	94.0	九州工大	93.9
2014	福井大学	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大学	95.8	名古屋大	94.2	東京工大	93.5
2012	福井大学	95.8	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2011	福井大学	94.7	岐阜大	93.1	名古屋大	93.0
2010	福井大学	94.3	九州工大	93.9	東京工大	91.3
2009	福井大学	97.2	九州工大	95.8	岐阜大	94.8
2008	福井大学	95.3	九州工大	94.6	岩手大	90.4

※実就職率は大学通信の「全国大学実就職率ランキング」実就職率＝就職者数÷（卒業者数－進学者数）



全国平均については、平成28年（2016年）3月卒業者のデータを掲載している。  
厚生労働省HP資料「新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移（2019年10月21日公表）」  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11652000/000557456.pdf>

## 福井大学が就職に強い3つの理由

社会的に自立し、社会を創造していける人材育成に力を入れ、キャリア・就職支援活動を強力にサポート。福大生は就職先から人間力・学力ともに高く評価されています。

## 積極的なキャリア形成

- 教育学部** 新しい学校教育を担う実践的指導力のある教員の育成
- 医学部** テュートリアル教育、医学英語教育により、日々進歩・変化する医療現場への適応能力を育成
- 工学部** 学科・学年を越えた少人数グループで具体的問題を解決する統合型体験学習を実施し、夢を世界でカタチにする技術者を育成
- 国際地域学部** 地域企業等と共に課題を発見・調査・解決する「課題探求プロジェクト」や海外留学等の経験を通して、地域創生を担い、グローバル社会の発展に寄与する人材を育成

## 学生を支える充実した就職支援体制

- ・就職担当教員、キャリアカウンセラーが内定までサポート
- ・本学独自の就活支援サイト「キャリアサポートシステム」の運用
- ・全国主要4カ所で就職活動の拠点となるサテライトキャンパス設置

## きめ細かな就職支援活動の実施

- ・年間を通して充実した就職ガイダンス開講
- ・多くの企業との出会いの場を提供
  - OB・OGとの懇談会、学内合同企業説明会・個別企業説明会、企業訪問バスツアー等
- ・複数学部を有する国立大学において“就職支援に熱心に取り組んでいる大学”でのランキングで全国1位（日経リサーチ「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査2019」）



キャリアカウンセラーによる就職相談



全国主要4都市に設置するサテライトキャンパス



4日間で計480社が出展する学内合同企業説明会

# 本学の教育力は高評価を得ています

THE世界大学ランキング日本版2019

**国立大学 32位** にランクイン

(※データ提出のあった86校中の順位：福井大学調べ)

THE世界大学ランキング世界版2020

エントリーのあった世界の大学の**上位6%程度**となる

**1001位+グループ** にランクイン

世界三大ランキングのひとつとされる、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）を運営するTES Global社が作る「THE世界大学ランキング」では、教育力に焦点を当てた日本版ランキングも発表されています。  
本ランキングは、世界の大学進学・留学希望者の大学選びに活用されています。

THE世界大学ランキング日本版HP  
<https://japanuniversityrankings.jp/>

## 福井大学基金 ～羽ばたけ基金～

福井大学基金では、人材の育成・輩出や地域社会の継続的発展のためのご支援をお願いしております。  
皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。  
(クレジットカード決済でのお申込も可能です。)

「古本募金」「ふるさと納税」によるご寄附も  
よろしくお願いいたします。



◆古本募金は、寄附者の方からご提供いただいた古本等を業者が換金し、その金額が福井大学基金に寄附されるものです。(送料等のご負担はございません)



◆福井県のふるさと納税「県内大学の魅力向上応援」を活用したご寄附については、「ふるさと福井応援サイト」ホームページをご覧ください。

※詳細は、福井大学基金のHPをご覧ください。  
<https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/>



## 研究者総覧をご存じですか？

大学のHPから福井大学に所属している研究者（教員）情報を検索できます。所属組織・職名・氏名に加え、キーワードや論文検索もできます。是非ご活用ください。

<http://t-profile.ad.u-fukui.ac.jp/search/index.html>



## 灯りで心に感動を～キャンパスイルミネーション～



思い出に残るような感動を与えるイルミネーションを、学生自らが企画しています。毎年様々な技術や工夫を凝らした行灯やオブジェを用いて、福井大学ならではの「ものづくり」の取り組みが行われています。

### ★開催時期

【文京キャンパス】毎年10月上旬～10月中旬  
【松岡キャンパス】毎年10月中旬～10月下旬

### ★詳細はHPをご覧ください

[https://www.u-fukui.ac.jp/cont\\_life/event/illumination/](https://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/event/illumination/)



## 福井大学の特色ある取組2020

発行 福井大学総合戦略部門経営戦略課  
発行日 2020年4月1日

大学へのご意見・ご質問について、お気軽にお寄せ下さい。

福井大学広報センター

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1

Mail: [koho@ad.u-fukui.ac.jp](mailto:koho@ad.u-fukui.ac.jp)

TEL:0776-27-9733 FAX:0776-27-8518

HP: <https://www.u-fukui.ac.jp/>

